

総務省

V-Lowマルチメディア放送のヒアリング

ご説明資料

平成23年8月30日



静岡放送 株式会社

はじめに 静岡放送の取り組み

昭和51年の東大助手石橋克彦氏による駿河湾地震説、そして昭和53年の大規模地震対策特別措置法制定により、静岡放送は様々な東海地震対策や緊急警報放送、災害時放送の訓練などを重ねてきた。

しかし、東日本大震災では、メディアの役割、特にラジオの責任の大きさを痛感し、更なる災害放送への取り組み強化が求められていると感じる。

東海地震の際の静岡県の被害は、1県当たりとしては東日本大震災や阪神淡路大震災を上回ることが予想される上、東南海地震、南海地震と連動して起きた場合、他地域からの援助を期待することが叶わず、県民市民自らが地震災害に立ち向かわねばならない。

地域の放送局として、県民の生命・財産を守り、勇気を鼓舞する役割を第一の使命として、V-Lowを考えて行きたい。

その時に備えてラジオを持とう！キャンペーン

東日本大震災を受け、被災時に貴重な情報源となるラジオの重要性を県民に伝えようと展開したシリーズ新聞広告。このほかにも、静岡放送は県民に対し、あらゆる機会を捉えて地震災害に対する意識の高揚をはかっている。

その時に備えて ラジオを持とう！ 第1回

東日本大震災。3月11日の地震発生から今日に至るまで、被災地でラジオは貴重な情報源。そしてこの震災をきっかけに大規模地震対策特別措置法が成立し、緊急時のライフラインとして改めて注目されるラジオ。今回は東日本大震災で地元ラジオがどのような放送をしたのか、ご紹介しましょう。

「あなたの情報は確かに届いてますよ」と言われることの大切さ

東日本大震災発生後、静岡放送は被災地へ緊急放送を行いました。その際、被災地では「あなたの情報は確かに届いてますよ」という言葉が、被災者にとって大きな励みとなりました。被災地では、ラジオが唯一の情報源となっており、被災者の安全確認や、必要な情報の提供に重要な役割を果たしています。

その瞬間、その後 伝えたいのか

被災地の声、被災者の苦しみ、被災者の希望。その瞬間、その後、伝えたいのか。それは、被災地の人々にとって、大きな励みとなりました。被災地では、ラジオが唯一の情報源となっており、被災者の安全確認や、必要な情報の提供に重要な役割を果たしています。

その時に備えて ラジオを持とう！ 第2回

東日本大震災。3月11日の地震発生から今日に至るまで、被災地でラジオは貴重な情報源。そしてこの震災をきっかけに大規模地震対策特別措置法が成立し、緊急時のライフラインとして改めて注目されるラジオ。今回はラジオの種類を使い分け方について、ご紹介しましょう。

いざと言う時のライフラインとしてSBSラジオは県民の期待に応えられ

ラジオには、いろいろなタイプがあります。SBSラジオのパーソナリティーをご紹介します。あなたは、どのタイプがお好き？

- ポータブルラジオ**：持ち運びが簡単で、音質もクリア。災害時にも使いやすいタイプです。
- 手回しタイプ**：電源がなくても聴けるので、災害時に非常用電源として活躍します。

必要なワケが

ラジオは、災害時に必要な情報源です。被災地では、ラジオが唯一の情報源となっており、被災者の安全確認や、必要な情報の提供に重要な役割を果たしています。

その時に備えて ラジオを持とう！ 第3回

東日本大震災。3月11日の地震発生から今日に至るまで、被災地でラジオは貴重な情報源。そしてこの震災をきっかけに大規模地震対策特別措置法が成立し、緊急時のライフラインとして改めて注目されるラジオ。今回はラジオの種類を使い分け方について、ご紹介しましょう。

いざと言う時のライフラインとしてSBSラジオは県民の期待に応えられ

ラジオには、いろいろな番組があります。SBSラジオのパーソナリティーをご紹介します。あなたは、どの番組がお好き？

- 朝はこの番組!**：朝のニュースや天気予報、生活情報などをお届けします。
- 午前はこの番組!**：午前中だけの特別番組です。
- 午後はこの番組!**：午後のニュースや天気予報、生活情報などをお届けします。
- 夕方はこの番組!**：夕方のニュースや天気予報、生活情報などをお届けします。

必要なワケが

ラジオは、災害時に必要な情報源です。被災地では、ラジオが唯一の情報源となっており、被災者の安全確認や、必要な情報の提供に重要な役割を果たしています。

V-Low帯によってなすべきこと

■目標

●地域経済活性化の促進

ハイパーローカルな情報を配信する事により、地域経済の活性化を図る。

●デジタルデバイドの解消

子供から老人まで、誰もが同じような利便性と安心・安全を享受できる。

●安全安心の推進

緊急災害時だけでなく、日常的に役に立ち、楽しむことができる地域メディアを提供する。

■経過措置として

県域のラジオ局とコミュニティFMについては、
受託放送事業者に「配信委託料」さえ払えばアナログ番組のサイマル放送ができるものとし、
将来、穏やかに「デジタルラジオ」へ移行できるよう配慮されたい。



■防災については

緊急時に安全安心情報を、住民に向けてプッシュ型で一斉配信できる放送サービス

地方自治体が主体となってこの責務を果たせるように制度設計を

SBS RADIO 防災スペシャル「大震災から学ぶ私たちの防災対策」

■放送形態 生放送

■放送日 平成23年8月28日（日）

■放送時間 午前9時00分～午前11時00分

※SBSをキーステーションに、コミュニティFM7局との共同制作

【FM Haro!、マリンパル、VOICE CUE、FM-Hi!、COAST-FM、Radio f、g-sky】

■企画内容

県防災総合訓練は8月28日に牧之原市、島田市、吉田町、川根本町で行われます。番組では津波訓練が行われる牧之原市での訓練の様態を伝えます。また、生活に密着したラジオとして、聴取者から事前及び生放送で「我が家の防災対策」「防災失敗談」等を募集し放送の中で紹介します。県内7つのコミュニティFM局からは「震災後のわが町の防災対策とその課題」「子ども、若者の防災訓練、防災教育への参加」などをテーマに録音により放送します。但し、訓練会場ともなる島田市からは地元g-skyパーソナリティーが現地訓練の様態を電話リポートをします。また東日本大震災被災地の石巻市、女川町で取材した被災者の声、そして半年たった8月末現在の現状と課題について、石巻市の被災者へ生で電話インタビューします。また被災地の県域放送局、そして女川町で震災後立ち上げた女川災害FM局の被災者スタッフにインタビューします。さらに東北放送、岩手放送のラジオスタッフにインタビューし、防災とラジオの関係について検証します。スタジオには日本災害情報学会・川端信正氏を迎え、今回の震災から見えてきたもの、そして県民が改めて備えなければならないものについて検証していきます。

■主な出演者

▽スタジオ

- ・解説 日本災害情報学会 川端信正氏
- ・録音出演 静岡県危機管理部 岩田孝仁氏
- ・司会進行 岡村久則（SBSアナウンサー）

▽中継

- ・牧之原市訓練会場中継 柳澤亜弓（SBSアナウンサー）
- ・島田市訓練会場電話リポート g-skyパーソナリティー

▽リポート

- ・各コミュニティFM パーソナリティー
（番組内容）

<9時台> 現状分析

- 東海地震をめぐる最近の動き
- 県総合防災訓練会場（牧之原市・島田市）から中継
- 東日本大震災被災地の現状
- コミュニティFMリポート
- 聴取者の防災対策紹介（FAX、メール他）

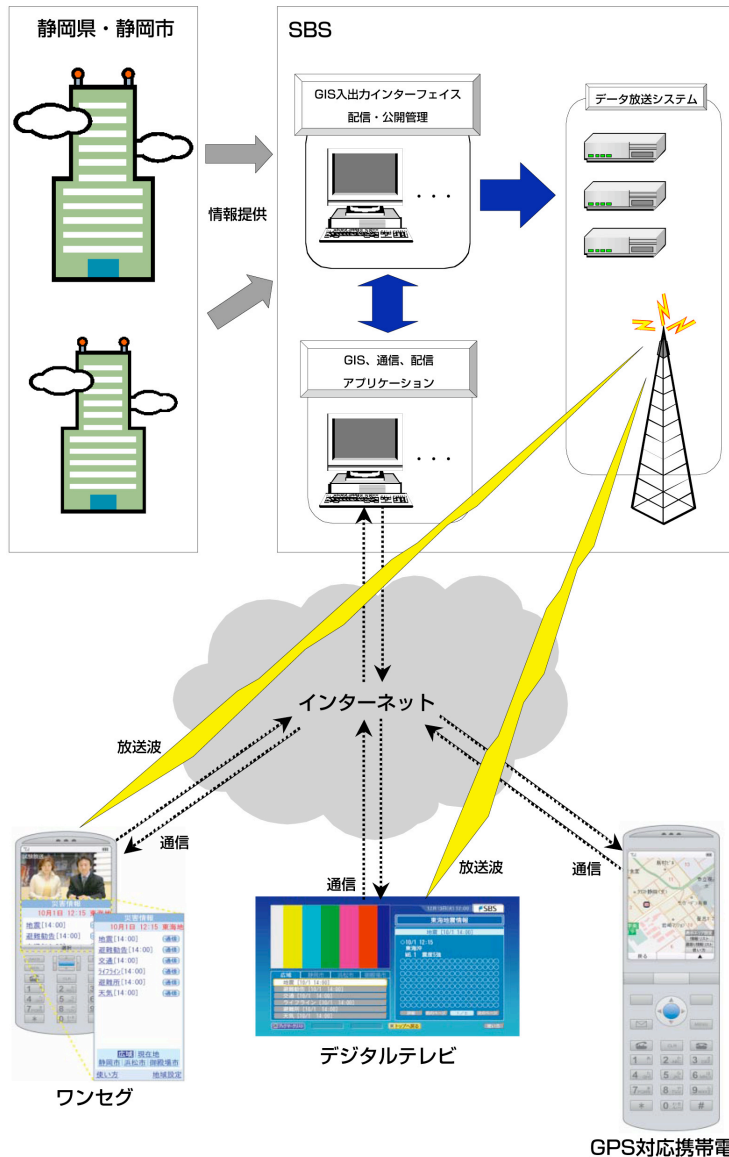
<10時台>

- 県総合防災訓練会場（牧之原市・島田市）から中継
- コミュニティFMリポート
- 東日本被災地からの電話リポート
- 聴取者の防災対策紹介（FAX、メール他）

地震防災特番 過去の実績 (抜粋)

平成17年11月27日(日) 8:00~10:00	地震防災ラジオフォーラム2005「実践!私にできる防災対策」	自らの命を自ら守るために、津波対策や耐震などの備え、地域の協力について考える。	SBS、K-MIX、マリンパル、富士FMラジオ、FM-Hi!、VOICE CUE、FM Haro!、COAST-FM、なぎさステーション、FM熱海・湯河原
平成18年1月15日(日) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「命を守ろう!TOUKAI-0 ~2006春~」	新潟県中越地震から1年間を振り返り被災者の本音に迫る。当時の行政対応もリポート。	SBS、マリンパル、FM-Hi! VOICE CUE、FM Haro!、COAST-FM
平成18年9月1日(水) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「命を守ろう!TOUKAI-ゼロ」~2006・秋~	東海地震30年について地震防災対策強化地域判定会・溝上恵会長に伺う。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f
平成19年1月14日(日) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「東海地震説から30年 今、為すべきことは」	東海地震説から30年の今、行政・会社・家庭でできる防災対策を再度考える。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f
平成19年9月1日(土) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「命を守ろう!TOUKAI-ゼロ」~2007・秋~	県総合防災訓練の様態を中継するほか、秋に始まる緊急地震速報を詳しく紹介。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f
平成20年1月13日(日) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「命を守ろう!TOUKAI-ゼロ」~2008・春~	「親子で防災」をテーマに過程でできる防災対策を中心に紹介。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f
平成20年9月1日(月) 9:00~11:00	命を守ろう!TOUKAI-ゼロ~2008年 秋~	静岡市の駿府公園周辺市街地をメイン会場に総合防災訓練の様子を伝える。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f
平成21年1月18日(日) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「命を守ろう!TOUKAI-ゼロ」~2009・春~	阪神・淡路大震災の経験を通じて、東海地震に立ち向かう心構えや具体的対策を検証。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f
平成21年8月30日(日) 9:00~11:00	防災スペシャル「見直そう!我が家の防災対策」	「我が家の防災対策」「防災失敗談」等を募集。コミュニティFM局は「防災の達人」を紹介。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f、g-sky
平成22年1月17日(日) 9:00~11:00	防災特番「東海地震は近づいている?」	東海地震まで、今どのような状態なのかを考える。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f、g-sky
平成22年9月1日(水) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル あなたと家族の防災対策	家庭の防災対策に焦点を当てメッセージを募集。携帯端末の重要性についても紹介する。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f、g-sky
平成23年8月28日(日) 9:00~11:00	ラジオ防災スペシャル「大震災から学ぶ 私たちの防災対策」	東日本大震災を教訓に防災対策を再度考える。牧之原市の津波訓練の様子も中継で伝える。	SBS、FM Haro!、FM-Hi!、マリンパル、COAST-FM、VOICE CUE、RADIO f、g-sky

通信・放送が融合した災害時における被災地向け情報配信システムの開発



静岡放送が平成17年度、NiCTから助成を受けて技術を開発

災害時において、被災地の住民が求めるきめ細やかな地域情報を、いかに早く正確に届けられるかにフォーカスした技術開発となっている。

■概要

GISを基盤として、地上デジタルテレビ放送のワンセグ受信機に向けて、通信と放送のそれぞれの利点を活かして情報配信するシステムを開発した。本技術を利用することによって、地上デジタルテレビ固定受信機に対してもGISを利用した高度なサービス（特に災害時において、被災地に対するサービス）の実現を可能にする。

■技術開発の内容

- ・ GIS関連アプリケーションの開発
- ・ 配信・公開管理アプリケーションの開発
- ・ 通信アプリケーションサーバの開発
- ・ 放送局送出装置の本技術開発用1セグメント放送機能拡張
- ・ 各端末へのアプリケーションの実装

地域メディアとして、どう防災情報を伝えていくか

各種警報

安否情報

避難誘導

救援情報

交通規制情報

自治体

公共コモンズ

連携

各々のメディア特性を活かしながら連携

地域防災情報、生活情報の確保・伝達に寄与

新聞

テレビ

ラジオ

地域SNS

コミュニティ放送
(デジタル)

地域内メディアの強固な連携

取材情報

静岡地区における今後の課題

東日本大震災→地域防災情報の確保・強化、被災地の生活支援強化の必要性を認識

ブロック内県域放送、コミュニティ放送の存在、連携が不可欠と認識

V-Lowコミュニティ放送が、県域放送を妨げずどの程度の出力が可能かは
置局してみないと不明

被災時、県内情報、コミュニティのハイパーローカル情報を
県全体としてどう提供していくか

県内の行政、放送局の緊密な連携を推進する「場」づくりが必要